



## Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第77号 2024年5月24日

### ゴールド

FRBの金利引き下げへの期待と中東の緊張が再び高まったことで、新たな過去最高値 2449.90 ドルに

### シルバー

インドの4月の輸入は 172 トン、今年の月間輸入量としては最低に

### プラチナ

NYMEX のファンドマネジャーネットロングポジションは2024年1月以来の最高に

### パラジウム

中国の4月の自動車販売台数は前年比 9% 増えて 236 万台、生産台数は 13% 増えて 241万台

## 米中貿易戦争の激化で 工業用貴金属生産は分散化？

米国と中国の間では2018年以来、貿易戦争が展開されている。米通商代表部 (USTR) は通商法第301条に基づいて中国製品に対する保護関税を決定する事前調査を2018年に開始し、その結果追加関税対象となった製品の合計は 5500億ドルにも達した。2020年初め、米国は関税をある程度引き下げ、中国も両国間の貿易不均衡解消のために米国製品の輸入を増やすと取り決めたことで緊張関係はいくらか和らいだ。しかし、この取り決めは守られず、その後のコロナ禍による混乱、そして地政学リスクの高まりも絡んで世界貿易の流れは再び書き換えられようとしている。

先週5月14日にはこの貿易戦争の新たな段階が始まった。米国は通商法第301条に基づいて中国原産品に対する追加関税対象品を増やすことを発表。半導体、太陽光パネル、電気自動車、バッテリー、グリーンエネルギーのサプライチェーンに含まれる製品などが新たに対象となり、総額は180億ドルに上る。この中の数品目はすでに分散化が始まっている電子機器サプライチェーンにも大きな影響を与え、例えば電気自動車の関税は、今年 25% から 100% に、太陽光パネルも 25% から 50% に上がる。半導体の関税は2025年までに 25% から 50% に引き上げられる。これらの分野は貴金属の需要にも影響し、今回の措置によって対象となる貴金属の工業需要に大きな地域差が生じる可能性がある。

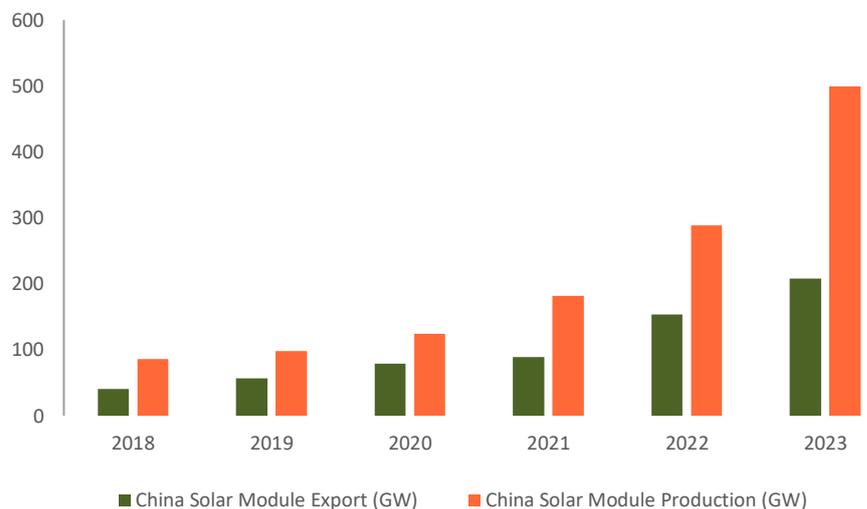
今まで中国は、経済成長の大きな部分を輸出に頼っていた。いわゆる「新三様」産業と言われる電気自動車、太陽光電池、リチウム電池の輸出額は、2023年は前年比で 30% 近く増加、今年の第1四半期は前年比で 66% も増えている。世界の電気自動車生産のうち中国製が占める割合は、2020年は 5% だったが、2023年には 30% に増えた。こういった状況に対して米国も欧州も、中国政府の過剰な製品輸出に懸念を見せていた。

米国が先陣を切って中国の電気自動車やその他のグリーンエネルギー関連製品に 100% の関税を課す動きに出たことで、欧州もそれに続いて自国産業保護のために同様の対処を迫られることになるだろう。

半導体に関しては、米国は AI や最先端半導体製造の技術開発、ウエハー、メモリー、その他の関連機器メーカーへのロビー活動に重点を置くことで、中国がノード 20 nm以下の半導体プロセスの開発をできないようにしようとしている(20nm 以下の半導体プロセスは高性能半導体に用いられ、高速処理を要する電子機器のチップに使われる)。しかし、たとえこの戦略が中国の技術開発に影響したとしても、中国が成熟プロセス (22nm 以上の製造プロセス) を通じて最終製品の生産市場で占める力は非常に大きい。例えば、中国は昨年、日本を追い抜いて世界最大の自動車輸出国になった。太陽光パネル生産でも世界の 80% 以上を占め、また国内のスマートフォン市場は中国メーカーが独占している。

米国が課す新たな関税は既存のサプライチェーンに直ぐに影響を及ぼすことはないかもしれないが、メーカーが中国以外の供給元を探す準備を早める効果があるかもしれない。実際、過去数年間で新興工業国に新たな生産拠点を設立するメーカーも数多くある。例えば、マレーシアでは半導体のパッケージング、組み立て、検査を行う産業が世界市場の 13% を占めるまでに育っている。

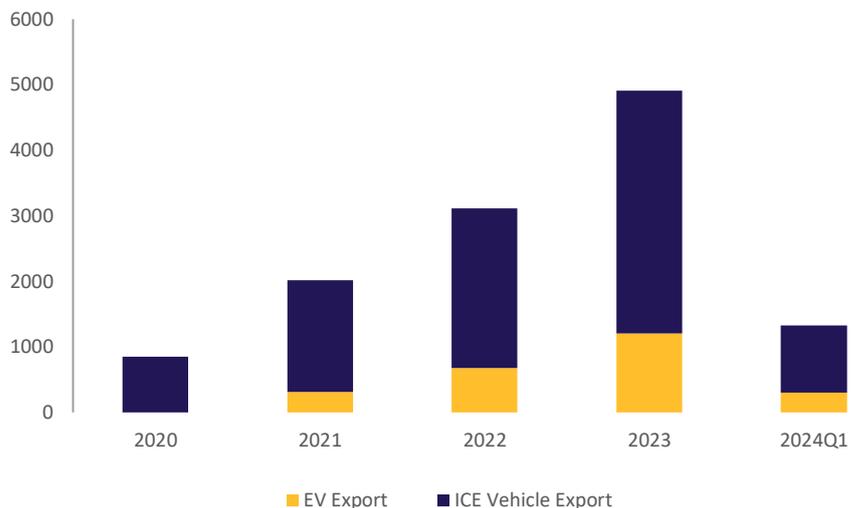
## 中国の太陽光パネル生産と輸出



半導体のプリント基板(PCB)生産ではタイが有力で、サーバー、自動車、光通信関連の製品などの拠点が来年にも稼働する予定だ。ベトナムは数カ国と自由貿易協定を結び、パッシブ部品、コネクタ、電源装置、サーマルモジュールなどを含む電子機器の新たな工場を誘致している。インドは関税も補助金も高いが、外資による工場を誘致しており、国内市場の大きさも手伝って生産工業が増えている。一方、メキシコは米国との距離を生かしたサプライチェーンを構築し、すでに北米地域の電子製品の生産拠点になっている。

以上のような新興工業国の発展は世界の工場としての中国の地位を直ぐに脅かすわけではないが、貿易戦争が加速している中で、世界のサプライチェーンの分散化の影響は既にある程度現れている。例えば、中国政府は国内生産を奨励する動きを強めている。また、貴金属は上述した新しい生産拠点の多くの製造過程で戦略的物質として広く認識されており、新興工業国では国外の供給先、ジョイントベンチャー、技術移転などによって国内で工業用貴金属生産を行おうとしている。このように工業用貴金属生産国が広がっている結果、彼らの貴金属市場への参加が始まっているのだ。

### 中国の自動車輸出



出典: 中国自動車工業会